

# CHIHOMEEN NEWS

## 自転車を活用した観光振興のための講演会・勉強会 ～H29.12.14 「ビワイチ」の充実化に向けて～



門田講師



山本講師

サイクリングロード「しまなみ海道」



講師資料より



講師資料より

しまなみ海道のノウハウをビワイチへ



滋賀県内の観光客はここ数年増加傾向で、2015年には過去最高の4,794万人（対前年比3.5%）となっているところですが、スポーツ・レクリエーションを目的とした観光客は1,014万人（前年比▲2.5%）と全体の2割程度にとどまっており、琵琶湖を中心とした滋賀県内の自転車観光である通称「ビワイチ（琵琶湖一周）」に期待が集まっています。

このような中、サイクリングロードとして世界的に有名となったしまなみ海道の成功に大きく貢献されたプロサイクリストの門田 基志氏と、NPO法人シクロツーリズムしまなみ代表理事の山本 優子氏による講演会、及び、県内の自治体・金融機関・事業者等と、講師を交えての勉強会を開催し、両講師が有する貴重なノウハウをヒントに、「ビワイチ」の充実化に向けた熱い議論が交わされました。



ビワイチ  
(琵琶湖一周)

# 『世界レベルでの感動を与えるサイクリング振興の取組み』

講師：門田 基志氏  
(GIANT所属プロサイクリスト)



## ◎ しまなみ海道の前例は参考としつつ、その土地にあった方法を検討。

しまなみ海道の前例や愛媛の前例は前例して参考になるが、それをそのまま滋賀県に持ち帰っても効果は少ない。

しまなみ海道の前例を参考にし、その土地にあった方法に落としこむ作業が必要となってくる。

この色々な事例を滋賀県で取り入れる場合は、ある一定の知識を持った専門家と地元で活動するサイクリストなどが協力して検討していく必要がある。

## ◎ 琵琶湖が目標とする一つの場所として、“ボーデン湖”

講師資料より



世界の自転車観光地から見ると、琵琶湖が目標とするべき場所は、ドイツのボーデン湖と考える。

琵琶湖はだいたい一周200 km ぐらいなので、距離も同じ。

そのまま真似できるわけではないが、国内の自転車を取り巻く環境や運用などを考慮しつつ、湖一周の完成形として目標とする一つの場所である。



## ◎ ブルーラインなどの前例を参考に

しまなみ海道の取組みのうち、参考になるものとしては、ブルーライン設置や、愛媛で実施している観光サイクリングを支える「安全や高齢者のサイクリングスクール」のほか、観光PR動画、自転車の安全利用といった事例があるので、この中から滋賀県に合う方法を模索していく必要がある。



## ◎湖以外にもフィーチャーすべきポイントはたくさんある

**湖岸ばかりに目が行きがちだが、**一歩内陸部に入ると、広く美しい田園風景が広がる。

また何よりも、**滋賀県には日本が世界から訪れる旅行者へ見せるべき場所として、安土城や彦根城、寺社仏閣など多数存在する。**

これらを立ち寄りスポットとしてうまくコースに組み入れることができれば、リーズナブルな良いサイクリングコースになると思う。



## ◎サイクリストの目線は大切に

**コースのスタート地点としては、駅や港、空港が適している。**

例えばスタート地点が山の上であったり、タクシーに乗らないといけないコースをサイクリストが走ることはなく、他にも、車が対向できるぎりぎりのサイズの道路や、あまりにも急な坂道を通るようなコースも行くことは少ないだろう。

自転車は乗ることが大切で、実際に乗ることで行って良い場所・危険な場所が見えてくるので、まずはサイクリストの目線に立ってコースを検討してはどうか。

## ◎自転車観光を大きな光とするならば、陰の安全対策も重要

サイクリストが増えると、道路の整備不足に対する危険性を問う声が出てくる。実際、湖岸道路の車道は路肩がないところも多く、とても危険な状態。

**自転車レーンや路肩を含めて道路整備がされないと、歩道を走るのか？どこを走るのか？分かりにくいし安全確保をしづらい状況**となる。

加えて気を付けないといけないのは、サイクリストにとって、乗っていくと速さが正義になる面があり、ビワイチで回を重ねると何時間で回った？など速さ、時間の記録に拘る傾向に陥りやすいのでそうなりにくい取組も考える必要がある。

サイクリストが増えるとそれだけ事故の危険性も上がるので、対策は何か起こる前からやっておかないといけない。

**今後、自転車観光を大きな光にするなら、それと同じレベルぐらい負のところ、陰のところがあり、万全の安全対策が必要となってくることは理解してほしい。**

しまなみでは県民の自転車利用も増え、安全対策を推進してきたかきもあって、愛媛県では、最近とにかく車が優しく、身近に自転車で走っている人、自分の家族や会社の同僚が多くなり、自転車への態度が変わってきているように感じる。

**安全対策の面は、ぜひ愛媛県の先例に学んでいただければと考えている。**

## ◎街ぐるみで観光対策を推し進める重要性

～県民が胸を張って琵琶湖エリアを自慢できるような雰囲気づくり～

ヨーロッパのレースで田舎町に行くことが多いが、**現地のカフェに立ち寄ると、「うちの町のこの川はすごくきれいだろう」、「この町は世界一の町なんだよ」と、地元住民による町自慢が、どこの地域に出向いても始まる。**



講師資料より

日本人の国民性からはなかなか言いにくい面もあるかもしれないが、琵琶湖エリアの中でもこんな風に、地元の良いところを良いと言えるような雰囲気づくりが大事だと思っている。

**「この町のここが、世界で一番綺麗なんだよ」など、地域住民がどこの人にも地元を素晴らしいと言えることが重要。**

## ◎電動自転車を活用して、誰でもサイクリストと同じ感動を

電動自転車があれば、**プロサイクリストも一般の方も全ての人が年齢も関係なく、山道を一緒に楽しく走り、一緒に体験**ができる。

これは**誰もがピッチに参加**ことができ、琵琶湖1周の敷居を下げる良いツールになるのではないかとと思われる。

何となく漕いで景色もたくさん見る余裕があるのに、**ゴールに着くとしっかりと達成感を得ることができる、電動自転車の活用には未来があると**考えている。



講師資料より

# 『自転車による持続可能なまちづくりの形成』

講師：山本 優子氏

(NPO法人シクロツーリズム  
しまなみ代表理事)

## ◎ ゆっくり旅をするリズムを感じる自転車の旅

しまなみ海道の良いところは、雄大な橋を渡り、少し曲がると造船場の風景が見え、更に一步入るとみかん畑が広がるように、五感を刺激してくれるところ。

中でも、**ゆっくり旅する自転車のリズムの中には出会いがあって、地域の方との交流が含まれるところが最大の魅力。**

旅に行ったとき思い出となるのは、景色がよかった、おいしいものを食べたとかはもちろん、**地域の方に声をかけてもらい仲良くなったとか、人が温かかったなど、人との出会いが何よりの思い出になってくる。**



講師資料より

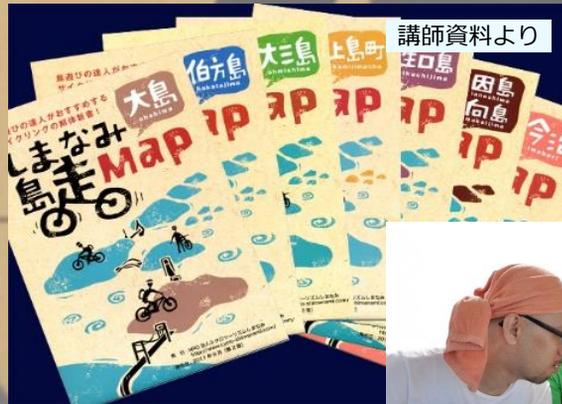
## ◎ 地域住民の方々とともに作り上げていったマップ

サイクリストを迎えるにあたり、**期待されるサービスをWEBでアンケートしたところ、マップが欲しいという意見が飛びぬけて多かった。**

スマホで情報が得られるが、マップ利用者は依然と多い。

しまなみでは島ごとにマップを作っていて、それぞれの地域の魅力を出し合ってもらい、地域の方と一緒に作ることをとても大切にしてきた。

**単なる観光振興ではなく、地域の方と何を作っていくか、地域の方がどんな暮らしを作っていきたいかをポイントに取り組んでいる。**



講師資料より



## ◎ 県下272か所にまで広がったサイクルオアシスの取組み

サイクリストの休める場を作るため、サイクルオアシス整備を始めた。住民参画で20か所から始まり、同年には県境を越え42か所に広まった。自転車に詳しくない住民の方々も、パンク修理ぐらいできるようにと勉強会もした。

今、**しまなみ海道沿線に272か所あり、このタペストリーの**



シクロHPより

**マークを見れば、自転車の休める場所だという認識も広まってきた。**



まちづくり活動を通して、広域連携の難しさを感じることも多々あった。サイクルオアシスは愛媛県側からスタートしたサービスが県境や市町村境を超えてつながった。**共通のマークを使い、受け入れる体制はしまなみ海道の地域ブランドの成長を大きく後押しした。**

## ◎ 宿泊施設の意識変化。「しまなみ自転車旅の宿」制度を確立

2003年に「**しまなみ自転車旅の宿**」という、サイクリストに自転車の保管や預かりが可能な宿を一括して紹介するサイトを作った。

安全保管・事前預かりの2点を最低条件とし、工具の貸出し、シャワーやランドリーがある宿などを紹介。

愛媛県との協働事業により、メンテナンス道具、スポーツバイク用自転車の貸出しなど、制度が整ってきており、**サイクリストが増えるに連れて、旅館業組合の方々の意識も変わり、受け入れ体制が整った。**

私たちシクロツーリズムしまなみでも、ゲストハウス「シクロの家」を開設しているが、情報収集をするために利用する方も増えていて、次の宿を探していく方も多い。

**滋賀県でも琵琶湖沿線の宿泊施設同士の連携や京都の宿泊施設とのネットワークを作ると良いのではないか。**



講師資料より

## ◎ 苦しい時期から、観光振興の方策を地域とともに考える

海道が開通した反面、今治市では船便の廃止、減少が続く。島嶼部の方たちと参画型で運営してきた協議会でも、地域内の課題として関心が高かった。そんな中、乗降が自由なサイクリスト専用のサイクルボートを試験的に運用してきた。船の交通事業者も意識転換が起こり、自転車を載せやすい船も造られている。サイクリングに来た人が全てのルートに限られた時間内に走れるわけではなく、船をうまく活用できればより楽しめる。



講師資料より



使われていない港もある。陸地部にある波方港はその一つで、地域の自治会等との座談会を経て、元切符売場を改装し、ゲストハウスとして活用する準備を始めている。

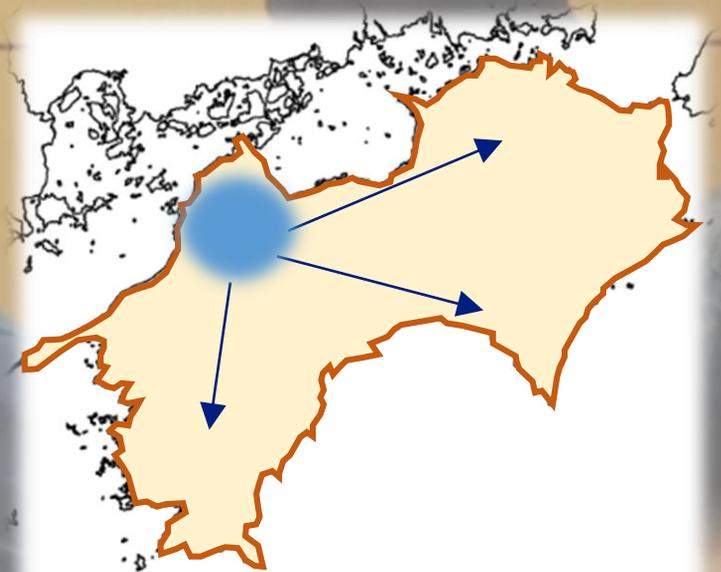
**観光利用の視点で地域課題を解決できるか、またいかに地域に主体的に参画してもらうかを意識して活動している。**

## ◎ 海外からの旅行客も増える中、広域連携へ

県外、国外からの来訪者の中には、長距離のサイクリング旅行を楽しみたい人も多い。

そんなサイクリストにとって、**空港や駅とサイクリングコースをつないであげることがとても重要だ。**ゆっくり旅する文化をしまなみ海道から四国全域に拡げていきたい。

四国遍路の文化も踏まえながら、しまなみ海道とつながる道をはまかぜ海道、いしづち海道として紹介し、四国一周のサイクリングコースとして発信していかないといけない。**これこそが地域連携だと思っているところ。**



## 第2部 「ワークショップA班」の様相

門田講師に参加いただき、ビワイチを盛り上げていくため、地域の出席者から寄せられた様々な疑問に対し、解決のヒントを提示いただきました。

“どのようにPRをしていくべきか？”

⇒ ターゲットを見極めてPRすべき！

(門田講師より)

- ・皆さんは各地の観光を絡めていきたいという思いをもっていると思うが、**1日200kmを走るターゲット層は、琵琶湖を1周することのみに一点集中し、特に観光をしたわけではない。**そういった層より、**あまり距離を稼げない人や、1泊したいと考える人たちにPRしていく必要がある。**
- ・プロモーション方法にしても、しっかりとウェアを着込んでいるサイクリストばかりに着目するのではなく、**観光を絡めるのであれば、普通の私服の女子大生が気軽に街中をサイクリングして楽しんでいる、そのようなPRも有効。**

“どのように各地の観光を絡めていくべきか？”

⇒ 観光は絞って絡めていくことが大切！

(門田講師より)

- ・神社一つとっても著名な神社から地元身近な神社まで数多くあり、**各市町が準備する名所を全て回るコースは難しいので、みんなが行きたい、一番だと思える名所を琵琶湖の周りで出していき、それを巡るコースをリーズナブルに作っていくことも大事。**
- ・特に今後、観光地で生き残るうえで重要な要素は間違いなくフォトジェニックと言われているので、**琵琶湖エリアの中でも写真写りのいい場所、行ってよかった場所を、ネットで拡散できるよう、ポイントを絞ることが大事。**(ただし、写真写りだけ良くしても、実際行ってみるとかえって落胆を受けることもあるのでその点は注意)

講師：プロサイクリスト  
門田氏

大津市  
清水主任

琵琶湖グランドホテル  
金子代表取締役

司会：和田調査官  
(大津財務事務所)

## “2泊3泊となった場合の荷物の搬送は？”

⇒ 運送業者との提携。駅利用にも可能性が。

(門田講師より)

- ・四国一周では運送業者と提携し、荷物を出発の朝に営業店に渡し、**宿泊したい町の営業店にワンコインでその日の夕方までには運んでおくというシステムを検討中。**
- ・しまなみや四国一周ではそこまで電車の沿線整備がないが、**琵琶湖であれば、例えばある駅に預け、今日の夕方、違う駅で受け取るようなことができれば、琵琶湖でしか発想できない面白い方法**と考える。



滋賀県  
大崎副主幹



びわ湖パレイ(株)  
小川営業部長

## “来訪意欲を高める一周認定制度でコツは？”

⇒ 無理させず、チャレンジ期間も伸ばす！

(門田講師より)

- ・四国一周の企画では8,000円の登録料に対し、ウェアに加え、一周すれば四国をかたどったメダルが授与される仕組みで、申込開始後2週間で250名程度の応募。
- ・一周1,000キロだが、**認定条件は公共機関を利用しても良いので半分以上走れば可とし、3年以内に分けて一周することも可としており、琵琶湖でも分けた方が良い。**



JR西日本  
宮川事務局長

## “ゆっくりと自転車を楽しむターゲットに訴求できるポイントは？”

⇒ 自転車の旅+aのアクティビティ！

(門田講師より)

- ・**ベネチアの日本版ともいえる、近江八幡の川に浮かぶ船などは誰もが遊びたいと思うはず。**  
しまなみを利用する訪日外国人客は、翌日にゴルフや登山を行う層も多い。

☞ (参加者より)

ならば、琵琶湖では、**湖そのものを楽しむマリンスポーツや、琵琶湖の源流をさかのぼって山登りをしたり、林道を走るコースの提案もいいのではないかな。**



オーバルオブテック(株)  
山脇代表取締役



上島係長  
(財務省地方課)

## 第2部 ワークショップB班」の様

山本講師に参加いただき、地域住民と取組みを推していくための課題と捉えられる様々な疑問に対し、解決のヒントを提示いただきました。

### “地域住民の心が、ビワイチを向く秘訣は？

#### ⇒ ①「小ロット多分散」の考え方で丁寧に

(山本講師より)

- ・しまなみの取組みでは、少しでも多くの地域住民の方から理解を得て協力いただくために、**お付き合いの方法や頻度といったところを、住民ひとりひとりの事情に応じて変えながら対応**してきた。
- ・年に1回協力してもらっている人もいれば月に1回協力してもらっている人もいるが、このようにして**地元の方がそれぞれにできる範囲で少しずつ風穴を開けていくことが、地域一体となって取り組む秘訣**と思われる。

### “地域住民の心が、ビワイチを向く秘訣は？

#### ⇒ ②自分たちで作り上げるというインセンティブ

(山本講師より)

- ・**地元の人たちに、快く観光客を迎えてもらうためには、自分たちで作っているというインセンティブが必要**。講演ではトイレやタイヤ空気入れの貸し出しや、水分補給のため水を提供しているサイクルオアシスというスポットを沿線に140か所作っている旨紹介した。いずれも民家の善意で始めたものだが、**自分のスタンスでそれぞれおもてなしができているところに、自主性や積極性が生まれているのだ**と思う。

☞ (参加者より)

**地元の人自身も、自転車好きにならないといけない**。自転車で琵琶湖一周をしている家族連れも多いので、学校として、**小学校6年生になったら琵琶湖1周を体験させるような提案を滋賀県が主体となって進めてくれたら地域住民にも自転車が定着する**と思う。



講師：シクロツーリズムしまなみ  
山本代表理事



(有)カンポ  
大橋代表理事



(株)ワオナス  
坂口代表取締役



司会：左向係長  
(大津財務事務所)

## “自転車旅行にはトラブルが多いのでは？”

⇒ 一期一会が、リピーターのきっかけに

(山本講師より)

- ・普通の旅行よりもトラブルが多いのが自転車観光であるが、その**トラブルの中でも人の優しさに触れる一期一会の出会いがある。**

自転車で走行している途中で暗くなったりしたら、宿のおじさんが迎えにいたりしている。そのような**優しさに触れるとまた来ようとなり、リピーターも増える。**



(株) Wallaby  
宮村代表取締役



(株) 湖北設計・粹世  
世一営業主任

## “ウケの良いマップを作るためには？”

⇒ 付加価値を付けて、旅行の大切な宝物に

(山本講師より)

- ・サイクリスト達は走り方が自動車とは異なり、**主要道路を繋げるだけでなく、一本路地の先におすすめの場所があればどんどんそれていき、それが自転車旅行の醍醐味**でもあるので、自転車乗り用にこだわって作っていくことが大切ではないかと考えている。
- ・**無料で配ると捨てられるので、あえて付加価値を付けて有料に**しており、さらに事前に購入してもらうことで、旅の前から現地を感じてもらい、大切にもらえる。



悠ツアー  
森 代表

## “ブームを一過性にしないためには”

⇒ みんなに優しいサイクリングロードへ

(山本講師より)

- ・ロードバイクの人だけが楽しめる環境ではなく、一般のファミリーユーザーや障がいのある方にも来てもらって、その人たちにターゲットを当てたブランド戦略も必要。しまなみも**今はロードバイクが流行っているが、ブームは波があり、そういった波の中で、どう持続的に振興させるかを常に考えていく必要がある。**

☞ (参加者より)

**琵琶湖はしまなみにくらべ高低差がほとんどない。車椅子の方にも自転車を体験してもえないかと模索しているところだが、滋賀県が中心となって障がい者にも優しいサイクリングロードとして取り上げてもらえればこれも一つのブランド化になる**と思う。



甲賀市  
神山課長補佐



米原市 商工観光課主事  
木原主事

### 第3部

## 「ワークショップC班」の様様

講演においても広域連携の必要性に触れられていましたが、同じ近畿にあって、琵琶湖一周のビワイチと淡路島一周のアワイチは、コース形状が似ているために、サイクリストの中ではよく比較されており、その連携について、淡路島内の自治体職員の意見も交えながら、可能性を探りました。

“ビワイチ、アワイチともに良さがある”

⇒ アワイチは道路幅員の改善が重要課題

(出席者より)

- ・自転車ショップを経営している感覚からは、**現在、関東のサイクリストには、ビワイチ、アワイチともに人気。ともに道がフラットな部分だけでなくアップダウンも多いため、リピーターが多い。**特にビワイチは人気が増し、昨年の来店者15万人のほとんどがビワイチのマップを持ち帰っている状況で、当社でも関東の顧客を対象にツアーを仕掛ける計画。
- ・**アワイチも海が見れる強みがある一方で道路幅が狭く、初心者には厳しい側面が否めない。**  
⇒ 確かに**アワイチにおいて、道路拡幅は重要な課題と認識しており、国道・県道の拡幅へ働きかけていく必要がある**と考えている。

“地域住民の理解を得るために”

⇒ 地域メディアでの周知と安全面の教育の徹底

(出席者より)

- ・アワイチでも住民の理解が重要と考えるが、ビワイチではどのような活動をしているか関心がある。  
⇒ ・例えば**守山市では、地域における子供への交通安全教育が数多くな**されており、これによって地元の方の理解が深まるきっかけになったと考える。
- ・観光振興策をはじめとする各種施策の地域への発信が重要と考えており、**特に地域メディアを大切にしているところ。守山市からの発信実績は、メディア全体で2年間で200~300件ほど発信。**



守山市役所  
杉本主任



富士通(株)  
丸田氏



淡路市役所  
高濱係長



司会：狩野係長  
(近畿財務局)

## “ICTの活用の可能性は？”

### ⇒ 利便性の確保と地産地消に繋がる情報提供

(出席者より)

- ・しまなみでの取組時には2,000人余りから当社作成のマップアプリをダウンロードいただいた。  
こういった側面に加えて、**ビワイチではコースから逸れたときに軌道修正できるようなアプリに修正できれば**と考えている。
- ・また、**安全教育の面では、VRを使用して自転車の目線による事故の危険性を感じていただければ**と考えている。  
⇒ アワイチでも、アプリの中でサイクルに来られる方々に**マップのもう少し詳細なところを地産地消を含めた魅力的な情報提供ができれば、経済効果も期待できるのではないか**と考える。



ワイ・インターナショナル  
山崎部長



(株)六甲商会  
島田取締役



NTT西日本  
大野課長



(株)F.P.J  
平代表



南あわじ市役所  
並木係長

## “ビワイチとアワイチの連携に向けて”

### ⇒ ビワイチを達成したら、アワイチへ挑戦！

(出席者より)

- ・巨人が琵琶湖を押すと淡路島ができたという巨人伝説にもあるように、アワイチとビワイチは組んでいけるのではないかと考えている。
- ・これまでもアワイチとビワイチはずっと比較されてきており、**ビワイチを達成したら、アワイチに挑戦という動きをサイクリストはしている**と思うので、セットで対応していけるのではないかと。
- ⇒ ・現時点では関東圏ではビワイチの方が人気。  
それは**ビワイチが初心者でも走れる一方で、アワイチの方が道路事情的に玄人受けするコースであるためだが、逆に言うとアワイチに面白味はある。**
- ・**ビワイチで慣れていただいた方が1年後に淡路島に来るといったコースも検討していく必要がある。**



# TEAMちほめんのビューポイント

## ○ 地域の課題解決に向けたイベント

今回の講演会・勉強会は、**ビワイチ**を更に盛り上げていくため、県内の自治体、事業者から、市町を跨いだ観光振興であるために、**①良い先例、特に地域住民とともに進めるノウハウを学びたい、②市町間はもとより、国・県も含めた行政・事業者との連携をもっと行っていきたいという声を多数受けたことから企画したものです。**



開会にあたって挨拶をされる  
滋賀銀行 執行役員 堀内営業統括部長

## ○ 滋賀銀行と共催

今回の企画にあたっては、**滋賀県の主要な地域金融機関である滋賀銀行**と相談した結果、国内でも先進的な取り組みで成功を治めたしまなみ海道に着眼したところから始まりました。しかし全く繋がりのない中どうしたらしまなみ海道を作り上げてきた方に接触できるのか。そこで着眼したのが**地域金融機関同士の繋がり**です。

**愛媛県には伊予銀行**という地域金融機関が存在しているため、滋賀銀行から伊予銀行に今回の講演会のテーマに沿う講師に心当たりがないか確認してもらいました。

すると伊予銀行がスポンサー契約しているプロサイクリスト門田基志氏と、NPO法人シクロツーリズムしまなみ代表理事の山本 優子氏をご紹介いただくことになり今回の講演会が実現したものです。

このように今回の企画は、**地方創生をスローガンに他地域の金融機関同士が広域連携**した結果生まれたものです。当日は伊予銀行広報CSR室藤井課長にもご参加いただき、ビワイチの現状を知っていただくことができました。

## ○ 複数のメディアによる報道

新聞やテレビをはじめとする  
各種メディアに取り上げて  
いただきました！

NHK 大津放送局  
ZTV

SANSPO  
京都新聞  
ニッキン



近畿財務局・大津財務事務所では  
今回の企画のように、地方創生に  
に向けた取り組みを推進しています。  
**ぜひ、あなたの地域でも活性化に  
に向けたお手伝いをさせてください。  
お問い合わせは以下まで！  
06-6949-6390 局・総務課企画係**

本企画でお世話になった方々、誠にありがとうございました。  
滋賀銀行のみなさま 伊予銀行のみなさま、  
ワークショップ参加のみなさま  
TEAM『サイクリスト』  
下井大津財務事務所長、田中、堂本、神山、須藤、左向、和田、  
平井、鈴木、西村、上野、吉田、小田、吉田